

KANAGAWA

一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会

<https://www.j-kana.or.jp/>
email: info@j-kana.or.jp



9

September, 2022
vol. 440



Contents

特集 北欧の建築・都市空間から学ぶ	01
建築探訪 (220501~2研修報告)	03
特集 わがまちの美術館・博物館・郷土資料館	05
委員会活動報告 (木造専門委員会、ブロック支部委員会、 業務支援委員会)	07
賛助会だより	11
支部だより (県西支部—60周年記念誌発行)	13
編集者のつぶやき (鎌倉)	14

瓦版は2021年12月よりWeb配信となりました。

特集 北欧の建築・都市空間から学ぶ

第4回：～北欧の光～

グッド・シェパード教会/ユハ・レイヴィスカ/2004/ヘルシンキ
Church of the Good Shepherd /Juha Leiviskä/Helsinki

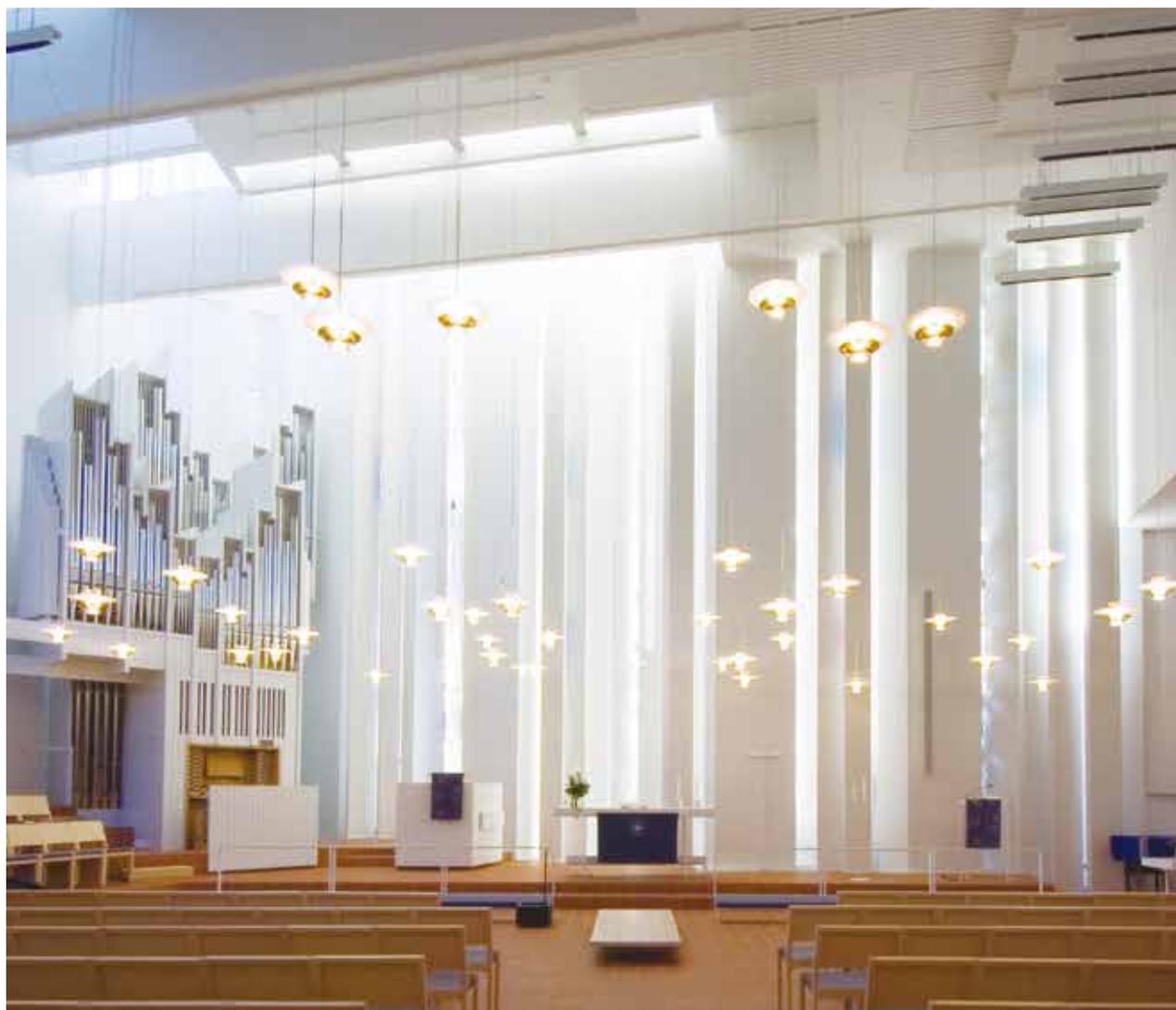
九州産業大学 建築都市工学部 教授 小泉 隆

高緯度の北欧諸国における独特な光環境は、北欧の建築を特徴付け、北欧の建築を読み解く上で重要な要素である。北欧の寒く長い冬は、太陽の出ている時間が短く、太陽が昇ってもその太陽高度は低くすぐに太陽は沈む。しかもこの時期、多くの地域は天候が悪く、暗く憂鬱な日々が続き、太陽の光を希求する思いが強くなる。一方夏は白夜で、太陽は沈んでも地平線近くに留まり薄明の状態が続き、完全な闇夜は訪れないうちにまた太陽が登り始める。さらに北

極圏の地域では完全に太陽が昇らない極夜と沈まない白夜の日々が続く。

このように北欧では、短い春と秋を挟みながら、夏と冬で極度に異なる環境が繰り返され、その連続性の中で長い時間をかけて、光に対する敏感な感覚や光を美しく扱う技法などが育まれてきた。太陽高度に関しては、一年を通じて低い太陽高度の光が支配し、その光が北欧独特の美しい景観や建築内部における美しい光の空間を生み出す大きな要因となっている。

1



グッド・シェパード教会（2004、ヘルシンキ） 礼拝堂。平行に林立する壁柱とそこに漏れ入る光及び浮遊する照明器具の光

そのような光の環境を背景に、北欧にはアルヴァ・アアルトなどの巨匠をはじめ光の扱いに長けた建築家が多く、それぞれ光に対する独特の感性を持ちそれが作品にも現れている。本稿ではその中の一人「光と音の建築家」とも称されるフィンランドのユハ・レイヴィスカ(1936～)によるグッド・シェパード教会を紹介したい。

礼拝堂は、幅広の壁柱による白い垂直面の重ね合わせにハイサイドライトからの光が漏れ射し、光を受けた白樺の森の風景との類似性も感じられる。壁柱の間にはアクリルブロックが埋め込まれ、波紋のような光がそこに映し出され、壁柱の裏側にはアクリルペイントの淡い色彩のパネルが配置され、そこに反射して色付けら

れた光がグラデーションをつけている。レイヴィスカがデザインした空間に浮遊する無数の照明器具の光も大きな魅力である。この教会を訪れると、純粹に美しい光と空間の力に圧倒され、また北欧の建築がその地の気候風土とともに存在していることを強く実感する。

レイヴィスカの美しい空間はその他、ヘルシンキ近郊では、ミュールマキ教会、ヴァッリラ図書館で体験できる。[写真は全て小泉隆撮影]

■参考文献

- ・『北欧のモダンチャーチ&チャペル 聖なる光と祈りの空間』小泉隆、2017年12月、バナナブックス
- ・『北欧の建築 500の建築・都市空間』小泉隆+九州産業大学小泉隆研究室、2022年3月、学芸出版社



光を受けた夏の白樺の森 (ラハティ近郊)



礼拝堂正面壁 詳細



壁面間のアクリルアート



外壁見上げ



礼拝堂祭壇からの見上げ



ミュールマキ教会 (1984、ヴァンター)



ヴァッリラ図書館 (1991、ヘルシンキ)

220501~2 研修報告

今年のゴールデンウィークにガラガラの新幹線に乗って、関西地方を歩いてきた報告をします。



・最近、大改修を終えた姫路城と旧陸軍姫路第十師団被服庫の姫路市市立美術館。

背後に姫路城を従え、漆喰と煉瓦の対比が戦いの歴史と重なり、感慨にふける。直木賞の「塞王の楯」から、山方、荷方、積方の役割の中で石垣を作ることを思う。

3



・日本で唯一、大工道具博物館の竹中大工道具館。カンナの刃を作る。まず炭を3cmと程に割り、高炉の準備。鉄を四角状に切り、鍛える。もう1枚添え一体化し、また鍛える。刃先を叩いて作り、叩いて切り、整形して研ぎに入る。表と裏を砥石で研ぐ。

神社、唐招提寺金堂組物の模型が見られる。「伝統と革新をつなぐ」道具館の楽しみ方を提案している。



ユー・アール・ユー総合研究所 小澤 勝美

・フランクロイドライト設計のヨドコウ迎賓館（旧山邑邸）芦屋川駅より北へ上り坂途中の迎賓館。緑に囲まれ、ひととき異彩を放つ。敷地は南北に長く、階段状に建てられている。2階南側の応接室。彫刻を施した大谷石とマホガニーの複雑な木組み装飾等で作られている。欄間上の窓にはそれぞれ換気窓としての機能を持たせている。



・日本民家集落博物館は、12件の民家を集めている野外博物館。これは飛騨白川の合掌造りの民家。1階は居住スペースで2階、3階が養蚕の空間になっている。昭和31年移築。信濃秋山の民家。壁も茅葺で夏は薄く、冬は厚く葺き替える。土間に茅を広げその上にむしろを敷いた土座住まい。



・本宿泊地のあまみ温泉南天苑の南天苑本館は辰野金吾設計。大正2年に堺市大濱に潮湯別館として建設。室戸

台風で被災後、昭和10年天海温泉に移築。昭和24年南天苑創業。我々は桜の間に宿泊。温泉は6畳ほどであるが、窓を開けると露天風呂感覚になる。



- ・富田林寺内町。永禄年間(1558~69)初年頃、興正寺の門跡証秀上人が、富田の荒芝地を百貫文で取得し、興正寺別院の建立と畑屋敷と町割等を依頼したのが始まり。ここは東高野街道、富田林街道などが交わる交通の要衝であり、石川流域で収穫される米、綿、菜種などの農作物と良質な水に恵まれたことから、南河内一の商業地として発展した。
- ・旧杉山家住宅（重要文化財）
杉山家は、寺内町創立以来の旧家で、江戸時代を通じて富田林8人衆の一人として、町の経営に携わってきた。造り酒屋として成功し、天明5(1785)には、1303石と発展を遂げた。

せる。大阪市中央公会堂は、中之島のランドマーク的存在である。安藤忠雄氏が大阪市中央公会堂の中に、卵型のホールを含む改修計画案を提案したが実現していない。ただ、渋谷駅にそのイメージが実現されている。



- ・篠山市篠山伝統的建造物群保存地区。古くから京都と山陰、山陽を結ぶ要衝の地。慶長14年(1609)徳川家康により篠山城が建てられた。江戸時代を通して、丹波国篠山藩5万石の中心地として栄えた。城下町は、城の周囲に武士の屋敷地に配され、その外側に京街道が引き込まれ、街道沿いに町人町が配された。面積は約40.2ha。



・あべのハルカスから北方を見る。手前の緑が天王寺公園、中之島、大阪駅方面。60階、高さ300mからの視界は遮るものが無く、大阪の地形が手に取るようにわかる。



- ・安藤忠雄氏設計のこども本の森 中之島。堂島川に沿い、やわらかい流れを作る。



- ・河原町妻入り商家群の景観。妻入りの商家が多く独特な景観を形成する。生活感があり、建築を保存しながら街並みを守っている。



- ・堂島川より緑に囲まれた大阪市中央公会堂を見る。新旧の建物が歴史を物語り、街を豊かにさ



- ・御徒士町武家屋敷群の街並み。茅葺屋根に茅葺の門、質素な造りの武家屋敷群である。

特集 わがまちの美術館・博物館・郷土資料館

海老名市立郷土資料館 海老名市温故館

海老名支部 株式会社SAIplus建築設計事務所 仙波 弦



温故館外観（所蔵：海老名市教育委員会）

「海老名市温故館」は、1918年（大正7年）4月に完成した海老名村役場であった建物を、1982年（昭和57年）に市立郷土資料館として改修し、開設された郷土資料館です。

1990年（平成2年）には平成元年度かながわの建物100選にも選定され、神奈川県内で現存する最古の役場建物です。

2011年に耐震化を伴う移築を経て、現在に至っています。

建物は、当時としてはハイカラな建築で、木造2階建て、瓦葺、外壁はドイツ下見張りで、上げ下げ窓、飾り柱を設け、正面に切り妻造りの玄関ポーチがあります。

5

玄関ポーチの柱には特徴的な柱頭飾り、玄関ポーチにはバージボードと呼ばれる飾り破風、垂飾り、装飾的な方杖が取り付けられ、全体的に直線的で素朴な装飾、左右対称の役場らしい建物です。

内部1階は考古・歴史資料展示室、2階は民俗資料展示室、企画展示室となっており、周辺地域で発見された遺跡や、敷地に面する「相模国分寺跡」の復元模型などが展示されています。

コンパクトですが、歴史を感じる建物と展示が見られるので、是非訪れてみてください。



【住所】〒243-0405

神奈川県海老名市国分南1-6-36

【開館時間】9：00～17：15

【休館日】12月29日～1月3日

（この他に臨時に休館あり）

【入館料】無料

【駐車場】2～3台

【アクセス】

小田急小田原線・相鉄線

「海老名駅」東口より徒歩10分

車で「圏央道海老名IC」より10分



温故館展示室1階（所蔵：海老名市教育委員会）

町立湯河原美術館

県西支部 一級建築士事務所長谷川設計 長谷川 匡



平松礼二アトリエ



and gardenウッドデッキ

湯河原は古くは万葉集にも詠まれた温泉保養地として知られ、明治から昭和にかけて多くの文化人が静養に訪れています。

「東の大観・西の栖鳳」と称された日本画家・竹内栖鳳や、洋画家の安井會太郎は晩年この地に居を構え、制作活動をしました。

町立湯河原美術館は夏目漱石や竹内栖鳳が逗留した老舗旅館を改装し平成10年に開館しました。

現在、現代日本画家・平松礼二の作品を展示する「平松礼二館」と収蔵品による「常設館」のほか、特別展や現代作家展などの展覧会を開催しています。

町立湯河原美術館に新設されたアトリエでは、現役の日本画家・平松礼二氏がコロナ禍以前は定期的に訪れ、湯河原十景などの制作をしたりファンミーティングを開催していました。

現在は制作中の作品・スケッチ画・画材などがご覧頂けます。

また、1階には有名な豆腐屋十二庵が運営するMUSEUM CAFE and gardenが有り、とても美味しい色々な豆腐料理が楽しめ、ウッドデッキには足湯も有ります。

近隣にはノスタルジックな湯元通りも有りますので、是非、温泉街湯河原ならではの雰囲気をお楽しみ下さい。

住所：足柄下郡湯河原町宮上623-1

電話：0465-63-7788

アクセス：JR湯河原駅から「不動滝・奥湯河原」行きバスで約12分
「美術館前」下車・タクシーで約8分

営業時間：9:00～16:30（入館は16:00まで）

休館日：水曜日（祝日の場合は開館、翌平日休み）、臨時休館あり

観覧料：大人600円 小・中学生300円（障がい者手帳をお持ちの方は無料となります）

HP：<https://www.town.yugawara.kanagawa.jp/site/museum/>

OYプロジェクト(Port Plus) 見学会

「O大林組」「Yやりました」OYプロジェクト。ではないようですが。

3月末、事務所協会の会員限定、20名二組。締め切り間近のメール告知あり。県西支部M君の熱い誘いもあり、すぐ申し込みをしました。そして、5月20日当日、大林組の研修施設で主要構造部(柱・梁・床・壁)すべてが木造である日本初の高層純木造耐火建築物の見学会に参加しました。

国産材を使った純木造11階ビル。そう日本は国土の約3分の2を森林が占める森林国です。この資源を生かすことは重要な課題、その建築的課題の耐火、高層、構造の新たな進展です。

関内駅から徒歩7分、私たち一組目は早朝9時25分集合、25分というのがまさにこれから始まる分刻みの説明会を表しています。案内通り完成したばかりのビル前で旗を持ってのお出迎え。わくわくして少し待ちます。一列に並んで入場、エレベーターで最上階へ。施設のコンセプトは「これからの知を産む場」。現れたのは、それ

県西支部 稲葉建築事務所 稲葉 勉

を裏切らない壁と天井がつながる大カーブ吹き抜け大空間。ここから中の説明が始まります。館内の空調、照明他が一目でわかる縦型の大タッチパネル、集中管理がわかりやすく表示されています。まさにスマート。そして木のぬくもり、日本の森から近未来が見えます。研修で宿泊もできるすてきな部屋も案内され、研修したい、いや、宿泊したい雰囲気。そして、下階へ階段で、階数も足元にどこからかプロジェクト表示、細かい演出、キッチン脇にオーク材テーブル。続いて肝心の木構造の説明、構造専門の担当者に替わり解説してもらいます。なんと手持ちパネルで見たいところをかざすと、中の構造が透けて見える。最後に、事務所協会の会員の専門家らしい質問?が出て少し時間オーバー。ちなみに「OYプロジェクト(Port Plus)」とは、オメガウッド(耐火)ロングスパンの梁を、安価に施工できる構法です。詳しくはWebで。

7



文化財建造物保存修理工事（本禅寺本堂完成間際）見学会

木造専門委員会 ARCHITO一級建築士事務所 歩く人 相馬 立夫

令和4年6月24日金曜日神事協木造専門委員会による文化財建造物保存修理工事（本禅寺本堂完成間際）見学会が催されました。

本禅寺は、厚木市の西北を流れる恩曾川左岸の大地上に位置する日蓮宗寺院です。

現在の本堂は、元和8年(1622年)最初建立、寛永18年(1641年)落慶とされ、2022年現在から数えると約380年を経ています。その他沿革等は昨年12月11日に行われた第1回目見学会の活動報告に記しましたのでここでは略します。

今回の見学会に先立ち、申し込まれた方には2種類の動画が限定公開されました。

一つは、施工者の(有)内田工務店宮大工棟梁内田幸夫氏が、施工の過程を記録した動画で、本禅寺の改修工事の一連の流れがとても分かりやすく、詳しく記録・解説されたもので、これを見れば昨年暮れの第1回目の見学会に参加できなかった方でも十分な予備知識を得て竣工間近の現場の見学に挑めると思える内容のものでした。

もう一つは、日本伝統建築技術保存会の「建造物木工の技術記録映像」という動画で、和歌山県九度山の慈尊院多宝塔の解体修理/宮島巖島神社の大鳥居の令和元年からの大修理/大阪府貝塚市国宝の孝恩寺観音堂の令和元年からの大修理/山口県萩市の国重要文化財大照院の本堂、経蔵の保存修理工事等の様子や、日本伝統建築技術保存会の技能研修・棟梁研修の模様などが紹介された、とても興味深い動画でした。

今回は完成間際見学会と位置付けられている通り、屋根の見事な銅板もほぼ葺きおわり、内

陣の格天井の天井絵や欄間の天女・迦陵頻伽の板絵も元の位置に戻されている状態を鑑賞することができました。今回も前回同様、現場にて施工者の内田氏に直接疑問点をぶつけ、直接詳しい回答がもらえる貴重な機会を頂きました。また、前述の動画と併せて、現場には各工程での作業の記録写真や説明パネル等も設けられ、着工から竣工に至るまでの流れがわかる見学会でした。今回の保存修理工事見学会、全2回の参加者内訳は、以下の通りです。第1回(2021/12/11)会員26名 一般2名 計28名参加。第2回(2022/06/24)会員26名(内1回目も参加9名) 一般8名(内1回目も参加2名) 計34名のご参加を頂きました。

今年度今後、木造専門委員会は、9/3「限界耐力計算による補強設計『材木座公会堂』現地講習会」、9/22木造建築物の基本講座(3)、10/20「進化する都市木造の世界～防耐火設計の最新情報を知る～」と多数の講習会を企画しています。皆さんの参加をお待ちしています。



須弥壇と格天井の天井絵
欄間の天女・迦陵頻伽の板絵



耐震補強木格子の説明

葺き上がった銅板を間近で眺める

ブロック支部委員会

～6/25 地引網大会～

ブロック支部委員会 副委員長 株式会社多摩設計 岩田 崇

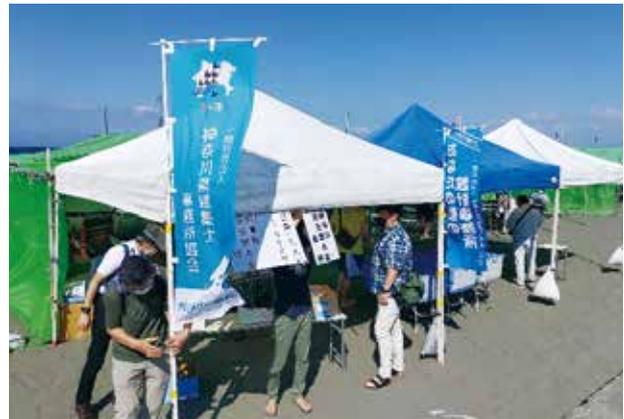
本年6月25日の土曜日に3年ぶりに地引網大会を開催することが出来ました。当日は晴天で大変天候には恵まれたものの、風が強いせいで波が高く船が出せない状況となり、残念ながら目玉行事の「地引網」そのものを断念せざるを得ませんでした。宝探しのアトラクションが好天の砂浜で行えたことが救いにはなりましたが、楽しみにしていた小さな子供さんたちには大変

申し訳ない結果になってしまいました。もちろん当日の天候や波の高さについては、前日から危惧されており、開催そのものの可否についても本会理事メンバー間で慎重に検討を重ねて来たことと当委員会も当日の朝に伺いました。

地引網の中止は多くの方を落胆させてしまいましたが、どうか苦渋の決断であったことをご理解いただければと思います。



当日設営担当の委員会メンバーと事務局の皆様



会員メンバーが到着前の設営風景

地引網そのものは中止となってしまいましたが、幸いだったのが天候の良さでした。

これまでコロナ禍により開催することが出来なかった大人数による各支部会員同士の交流会は、大変盛況であったと思います。私自身も設営の傍ら久しぶりに海を見ながらバーベキューをし、昼呑みをするという贅沢時間を味わうことが出来ました。もっとも正直に申し上げれば、飲み食いの傍らで設営を行った・・・この表現が正しいかもしれません。それもこれも磯部事務局長を中心とした事務局の皆さんのご協力があったこそ！

この場をお借りしまして改めて感謝を申し上げます。今回設営側に回ったことで、裏方で頑張っている方々のご苦勞が良く理解でき

たことも今後の神事協活動においてプラスになったと思います。会員間交流とは会員が他の会員のために思いやりをもって行動すること、とでも言いましょうか・・・そこには設営側もお客側もないのかもしれませんが。地引網の設営を志してブロック支部委員会を希望する若いメンバーが増えれば・・・益々盛り上がることと思います。

最後になりますが、思い起こせば今年中学校に入学し、身長では私を追い越してしまった自身の息子も保育園時代にこの地引網大会に大変お世話になりました。この神事協の名物行事に今後も多くの会員とご家族が参加して頂き、そして思い出の深い場になって行くことを切に祈っております。ご参加頂いた会員の皆さん、本当にありがとうございました。

「(仮称)会員サポートセンター」設立に向けて

業務支援委員会委員長 Archi-JAM Workshop合同会社一級建築士事務所 小山 美智恵

2017年からは未来に繋げる事業専門委員会として、2019年からは戦略企画委員会として、神事協の方向性を探ってきました。内向きサポートとしての経営マネジメントを含む業務支援と外向きサポートとしての業務受託に向けた戦略支援の二本立てで「(仮称)会員サポートセンター」の設立準備をしています。

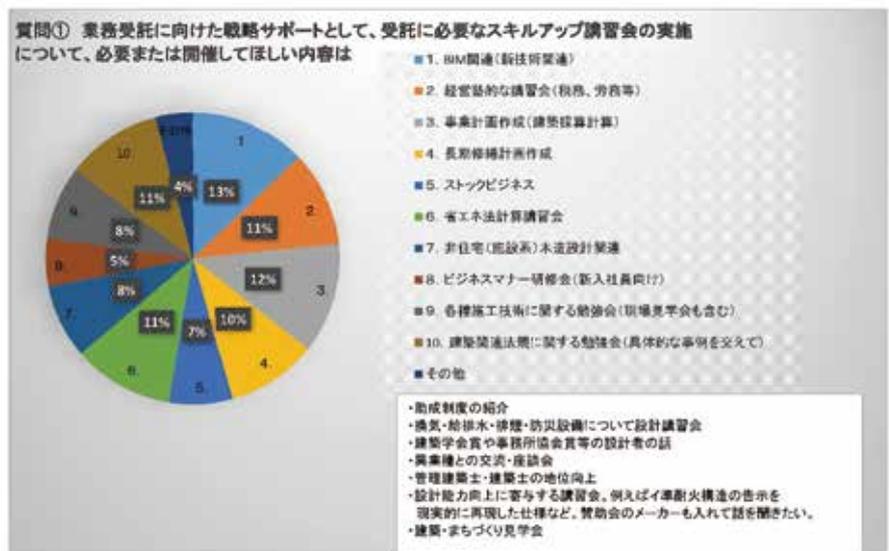
このセンターに期待するサポート内容は、神奈川会らしさを考慮した上で、東京会の「マネジメント支援センター」を参考にプライオリティをつける目的でのアンケートを行いました。外向きサポートとしてはBIM関連、事業計画や長期修繕計画作成、税務等の経営塾、法規や技術の勉強会、ストックビジネスやビジネスマナー研修会等、内向きサポートでは協力事務所や専門家、メーカー等の紹介、アーカイブ受講や割引等の講習会サポート、設計図書の保管やフォーマットの提供、業務災害補償、事業継承や廃業及びホームページ開設支援等多岐に渡る項目をリストアップしました。

講習会企画においてはコンテンツを洗い出し、視覚的にイメージしやすいアイコンによるカテゴリー分けを行い、技術系(法改正等)、環境系(景観や省エネ、防災等)、経営系という分野別、構造別(木造やRC造等)、用途別(住宅系、福祉施設等)でスケジュールの見える化を図っております。

支部等で受託検討したい

業務に関するアンケートでは木造住宅耐震診断、バリアフリー(介護保険住宅改修等)、狭あい道路、維持管理(市営住宅の調査点検等)、相談窓口(木材利用や住宅相談等)に関する業務についての回答から、講習会は座学にとどまらず意見交換や情報提供の場を設ける等コンシェルジュとしての役割を担う必要性を再認識いたしました。

既存のサービスをプレストし、ホームページの有効利用で内容の周知を図るスキームとし、出来ることからスタートを切るというスタイルで実行に移していきたいと思います。社会の変化に対応し、時代に即した結びつきや繋がりを持つ組織を目指します。



賛助会だより

賛助会員紹介

神事協・神奈川賛助会 会長 株式会社 都市計画地盤研究会 安藤 彰彦

当社は地盤改良杭(φ2,000mm以下)を手掛けていましたが、今では場所打ち杭、既成杭、小口径翼杭と数種類の杭も設計からお手伝いをさせていただいております。元設計の見積依頼にも答えておりますが、見積の前には現地の確認、構造計算の検収を行ってからの見積提出と時間を掛けておりますが、中には構造計算の疑問がいくつか見られることがたまにあり、構造事務所との話し合いが起こることがたびたびあります。また設計深度より杭が高止まりで安全と考えてよいか、既設杭の再利用が可能か、などの杭工事の検収依頼も頼まれることもあります。特に杭の検収は記録紙に頼るほかはありませんが当社は杭の非破壊試験による安全性の確認試験も行っておりますので不安があるようであればお声を掛けてください。自社の地盤改良杭の試験工事にて建築センターの2002年版432頁のような非破壊検査を実施しましたが、杭長の波形の

確認が不鮮明で得られない結果となっておりますので再度試験工事を考えております。

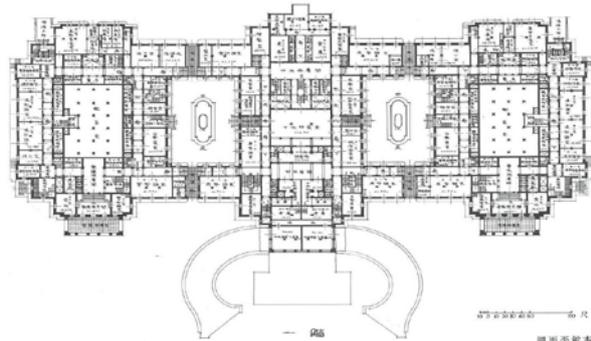
当社の非破壊検査の事例を紹介します。国会議事堂本館の杭長の検収に協力させていただきましたときの内容を一部写真にて紹介させていただきます。



- ◆帝国議會議事堂建築の概要書より
- 建物坪数3,750坪(12,396平方米75)
- 延坪数15,780坪(52,165平方米52)
- 階敷 一般 三階(一部四階)外二地下階
- 高さ 一般69尺(20米91)
- 中央塔216尺(65米45)
- 幅員 正面長さ 681尺(206米36)
- 側面長さ 292尺5(88米63)
- 體積 約1,230萬立方尺
- 換算 5萬7,000立坪(34萬立方米)
- 重さ 約2,900萬貫 (10萬9,000噸)



図面正東館本



図面平館本



株式会社都市計画地盤研究会

〒252-0004座間市東原2-16-8 メゾンケイユ-202

TEL.046-266-4050

賛助会だより

大地を支える地盤と水を知り、建物に安心・安全を提供します

神事協・神奈川賛助会 副会長 中央開発株式会社 西原 聡

弊社は、1946年創業の地盤調査の老舗であり、これまで新潟地震や阪神大震災など、数多くの地震被害調査を行ってまいりました。

2011年3月に発生した東日本大震災では、千葉県浦安市において地盤の液状化に伴い、戸建て住宅に大きな被害が発生しました。

地震や洪水等の自然災害は地盤と密接に関連しており、地盤リスクを明らかにし、少しでも建築に関わる方々への理解を深めて頂くことを目指して、2012年に神事協・神奈川賛助会に入会させて頂きました。2015年より賛助会副会長をやらせて頂いており、建築士と賛助会が少しでもコミュニケーションが取れるよう微力ですが頑張っていきたいと思っております。

引き続きご愛顧よろしくお願ひ致します。

ここで弊社の技術紹介をさせて頂きます。

地盤情報無料配信サービス『地盤情報ナビ』は、WebGISを用いて地盤情報だけでなく災害ハザード情報やその他地理空間情報を重ね合わせ、ユーザーが簡単に利用・検索できるサービスです。国や自治体が公開しているボーリングデータ30万本の柱状図の他、液状化危険度マップ、地質図等を配信しています。柱状図と地質図を組み合わせると、災害リスクが見えてきます。一度お試下さい。入会金・年会費は不要です。下記URLより会員登録の上、ご利用できます。

<http://www.geonavi.net/georisknavi2/>



東日本大震災の液状化被害状況
(千葉県浦安市、噴砂と家屋・電柱の傾斜)



ボーリング位置図と柱状図
(横浜市中区付近、地盤情報ナビより)



土地条件図
(横浜市中区付近、地盤情報ナビより)



液状化危険度マップ
(東京都台東区付近、地盤情報ナビより)

土と水ホールディングスグループ 中央開発株式会社
〒169-8612 東京都新宿区西早稲田3-13-5
TEL 03-3208-0561 E-mail : nishihara.s@ckcnet.co.jp

県西支部設立60周年記念誌発行

竹広林業株式会社一級建築士事務所 加藤 一郎

50周年を迎えてからのこの10年は特に大きな時代の変化が起きたと思います。

気候変動や疫病の蔓延もさることながら実務においてもデジタル化やエネルギー問題など枚挙にいとまがない状況です。

その中でもこの60周年を迎えることが出来た喜びを皆様と共に分かち合いたいと思います。記念の祝賀会や講演など皆で集まるイベントはすべてキャンセルとなりましたが、この記念誌を発行することが出来たのは何よりの幸いでした。

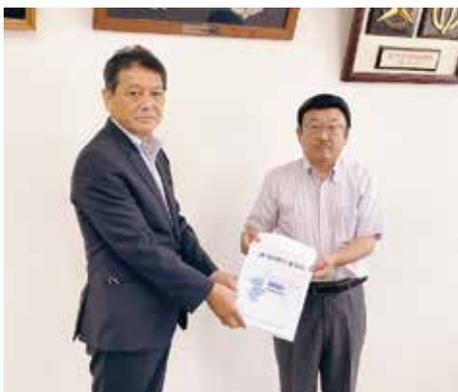
県西支部では二市八町の首長様方に直接手渡しでこの記念誌をお届けいたしました。



大井町長 小田 眞一 様(左)



箱根町長 勝俣 浩行 様(右)



湯河原町長 富田 幸宏 様(左)



13

60th Anniversary

目次

- 1. 誌の趣意
- 2. 編集委員
- 3. 編集後記
- 4. 大井町長 小田 眞一 様
- 5. 箱根町長 勝俣 浩行 様
- 6. 湯河原町長 富田 幸宏 様
- 7. 編集委員
- 8. 編集委員
- 9. 編集委員
- 10. 編集委員
- 11. 編集委員
- 12. 編集委員
- 13. 編集委員
- 14. 編集委員
- 15. 編集委員
- 16. 編集委員
- 17. 編集委員
- 18. 編集委員
- 19. 編集委員
- 20. 編集委員
- 21. 編集委員
- 22. 編集委員
- 23. 編集委員
- 24. 編集委員
- 25. 編集委員
- 26. 編集委員
- 27. 編集委員
- 28. 編集委員
- 29. 編集委員
- 30. 編集委員
- 31. 編集委員
- 32. 編集委員
- 33. 編集委員
- 34. 編集委員
- 35. 編集委員
- 36. 編集委員
- 37. 編集委員
- 38. 編集委員
- 39. 編集委員
- 40. 編集委員
- 41. 編集委員
- 42. 編集委員
- 43. 編集委員
- 44. 編集委員
- 45. 編集委員
- 46. 編集委員
- 47. 編集委員
- 48. 編集委員
- 49. 編集委員
- 50. 編集委員

編集後記

編集委員 加藤 一郎

60周年記念誌を発行するにあたり県西支部の二市八町の首長、県西支部事務局長をはじめ多くの方から御協力を頂戴しました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。時代の不安定化は様々な悩みや課題を生み出している時代となっております。新型コロナウイルス感染症は二数年の未曾有の困難であり、更にウッドショックやロシアによるエネルギー供給の不安定化も入っております。そのような状況の中でも県西支部の活動として、支部の発祥地である湯河原町の発展を完全に見守り続けてまいりました。会員の皆さんに少しでも有意義な情報やイベントをお届けできていることが、今以上に大変な事と見受けられます。今後どうも宜しく御礼申し上げます。

編集委員 加藤 一郎、加藤 一郎、加藤 一郎

新入会員のご紹介

横浜支部	
teadesign一級建築士事務所 〒223-0062横浜市港北区日吉本町2-52-19-303 TEL.090-3966-4578 FAX.045-620-7634	小田 薫子
京浜マイホームサービス株式会社 〒234-0051横浜市港南区日野5-1-11 TEL.045-844-5531 FAX.045-844-5931	助川 克憲
K A I 建築設計室 一級建築士事務所 〒223-0052横浜市港北区綱島東4-1-22-220 TEL.045-531-7850 FAX.045-531-7850	吉田 絵里子
川崎支部	
SUDA設計室 〒215-0011川崎市麻生区百合丘1-18-5-502 TEL.090-6480-4327	須田 充洋
鎌倉支部	
工藤宏仁建築設計事務所 〒248-0014鎌倉市由比ガ浜3-5-7 TEL.0467-22-3008 FAX.0467-61-1226	工藤 宏仁
県西支部	
一級建築士事務所 nias 〒250-0874小田原市鴨宮196 TEL.0465-46-7733 FAX.0465-45-1312	石塚 栄樹

退会者

横浜支部	
株式会社WAKUWAKU二級建築士事務所	野竹 幸朋
川崎支部	
納谷建築設計事務所 Kデザイン工房	納谷 新 木村 敬一
藤沢支部	
日本住研株式会社二級建築士事務所	中村 修
湘南三浦支部	
Hayama Design Office	及川 史朗
大和綾瀬支部	
露木電気ビル管理二級建築士事務所	露木 汎明
県西支部	
カマタ建築設計事務所	鎌田 直和

変更

横浜支部	
一級建築士事務所キリンエンジニアリング株式会社 (TEL、FAX、指定代表者変更) TEL045-451-7600/FAX045-451-7650 佐藤 誠一	
川崎支部	
一級建築士事務所小川貴之建築デザイン (事務所所在地、TEL、FAX変更) 〒211-0041川崎市中原区下小田中1-25-14 TEL044-863-7664 /FAX044-863-7664	
藤沢支部	
建築総合企画 ジーボックス 一級建築士事務所 (事務所所在地、TEL、FAX変更) 〒252-0801藤沢市長後1537-4 TEL0466-90-4457/FAX0466-90-5408	
鎌倉支部	
菱栄テクニカ株式会社一級建築士事務所 (指定代表者変更) 原 和彦	
平塚支部	
レモンホーム株式会社一級建築士事務所 (指定代表者変更) 井上 英彦	

賛助会退会者

日鉄鋼板株式会社

会 勢

支部名	令和4年4月1日	現在	入会者	退会者	増減
横 浜	245	248	6	3	3
川 崎	103	107	6	2	4
横 須 賀	50	51	1	0	1
湘南三浦	17	16	0	1	-1
藤 沢	35	34	0	1	-1
鎌 倉	38	38	1	1	0
茅ヶ崎葉川	14	14	0	0	0
平 塚	22	22	0	0	0
秦 野	13	13	0	0	0
伊 勢 原	5	5	0	0	0
大和綾瀬	19	18	0	1	-1
厚 木	31	31	0	0	0
座 間	12	12	0	0	0
海老名	16	15	0	1	-1
愛 川	6	6	0	0	0
相模原	63	63	0	0	0
県 西	39	38	2	3	-1
合 計	728	731	16	13	3
賛助会員	99	95	0	4	-4

※退会報告等の状況により会員数は常に変動しております。
※入会者、退会者には支部間の異動も含まれます。

編集者のつぶやき



写真は左上から時計回りに
上空 前-由比ガ浜と材木座の間 右-由比ガ浜方面 左-材木座方面
2022年8月の鎌倉 材木座海岸
花火は3年連続で中止となりましたが、海の家が建ち並び観光客
で賑わいました。
青い空 入道雲 心持ち静かな海
人混みは苦手だけれど
来年は花火と海の家とゆっくり愉しめますように
(鎌倉支部 アトリエ空庵 中原 尚代)

◆◆◆令和4年度 入会金&会費無料キャンペーンの実施について◆◆◆

現在、当会では「令和4年度 入会金&会費6ヶ月間 無料キャンペーン」を実施中です。
会員の皆様におかれましては、まだ当会へ入会されていないお知り合いの建築士事務所様への周知等、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
<制度内容>
◇入会金30,000円および入会時から6ヶ月間の会費を免除
◇適用期間 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
のご入会分
※詳しくはキャンペーン特設ページをご参照ください。→https://j-kana.or.jp/architect_news/4908



KANAGAWA 令和4年9月号 (通号440号)

発行 令和4年9月1日 (奇数月1日発行)
発行人 白井 勇
発行所 一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会
〒231-0032 横浜市中区不老町3-12 加瀬ビル201 2F
TEL. 045-228-0755 / FAX. 045-212-3807
印刷所 株式会社 柏苑社

担当副会長 杉本 勝郎 小松 正道
会報誌編集特別委員長 小泉 厚
会報誌編集特別副委員長 加藤 一郎
会報誌編集特別委員 雨森 隆子 小河 泰隆
森本 和樹 戸井田 顕
中原 尚代 仙波 弦
事務局 久保田 千尋



今月の表紙

城山隧道

相模原市は、相模川や道志川の清流、相模湖や宮ヶ瀬湖など、大都市圏の水がめを有していることから「潤水都市さがみはら」というシティセールスコピーを設定しています。

表紙の写真は道志川の水を横浜まで送るため大正3年(1914年)に設けられた管路ずい道で、当時わが国では2番目に長いトンネルでした。現在でも使われています。

(表紙写真・文／杉本 勝郎)



一般 神奈川建築士事務所協会
社団法人 Kanagawa Architect Office Association